第３回放課後子どもひろばこしごえ外７施設指定管理者選定委員会　議事概要

１　日時

令和６年（2024年）10月16日（水）9時10分から12時00分まで

２　場所

　鎌倉商工会議所　301会議室

３　出席委員

　　加藤委員長・田村副委員長・赤須委員・大西委員・髙橋委員

４　事務局出席者

小林（青少年課長）・小松田（青少年課青少年担当係長）・渡邉（青少年課青少年担当職員）・白井（青少年課青少年担当職員）・髙橋（青少年課青少年担当職員）

５　審議等内容

　(１)　はじめに

　　　　公開ヒアリングに先立ち、公開ヒアリングの流れ及びその内容の確認を行った。

　　　　プレゼンテーションのテーマは、【人員体制や環境づくりをはじめとして、配慮が必要な児童にどのような寄り添った支援を行うか。また、保護者をはじめとして、地域と一緒になって放課後かまくらっ子を児童にとって居心地の良い場所にするために、どのように展開していくか。】とした。

選定に係る判断基準として、スタッフの人員配置が十分になされているか、保護者をはじめ地域と一体となって運営を行うことができているかということが課題としてあげられた。そのため、第１回選定委員会で協議し、配慮が必要な児童への支援が行きわたる十分な人員配置がされ、また指定管理者が地域を巻き込みながら、参加する児童にとって居心地のよい放課後かまくらっ子を実現するために、指定管理者として、どのような取り組みを行っていくかに重視して選定を行うこととした。

　(２)　公開ヒアリング（プレゼンテーション及び質疑）

　　　　応募団体が、放課後子どもひろばこしごえ外７施設に関する内容について、テーマに沿ったプレゼンテーションを行い、その後、選定委員から応募団体に対して質疑を行った。

　　　　主な質疑内容については、別紙質疑応答表のとおり。

　(３)　採点及び審議

　　　　各団体の採点結果は、採点表のとおり。

　　　　なお、応募団体は最低基準を満たしていたため、選定委員５人の採点を総計し、その合計点で最高点を獲得したシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社東京支店横浜営業所が優先交渉権者として選定された。

　(４)　講評

　　　　副委員長：提案書は本当に素晴らしかった。記載されている内容が、どこまで支援員をはじめ補助員にまで行き渡り、配慮を必要とする児童への体勢をとることができているかが重要である。今後にぜひ期待したい。保護者、支援員間のコミュニケーションは最も大切である。学校の先生との密な連携が可能になれば、子どもの悩みが可視化できる。そういった点も期待している。一方で、不登校児童の対応について学校に戻すことがゴールではないと思う。その点については理解を変えてほしい。乳幼児親子について、質問できなかったが、放課後かまくらっ子が乳幼児親子の居場所として開放していることを市民はまだ知らないことが多いため、ぜひ周知に力を入れていただきたい。

　　　　赤須委員：資料等で確認する中で、地域や保護者の意見として満足度が高かったため、現指定管理者が継続して運営を行う形になったことはよかったと思う。プレゼンテーションから会社の方向性として放課後かまくらっ子のめざすものをしっかりと理解していることが分かった。ただし、現場まで落とし込めているかが重要である。ぜひその点も期待したい。

　　　　高橋委員：コミュニケーションの取り方に対する考え方をきいて安心した。ただ、さらに現場の声を吸い上げてほしいとも思う。プレゼンテーションではとても誠意を感じられた。今後もぜひ期待したい。

　　　　大西委員：基本方針として、子どもがこうありたいということを実現したいとあり、これが全てだと感じた。放課後かまくらっ子は、子どもが中心であるため、子どもがどうしたいかを大切にして、対応していただきたい。加えて、コミュニケーションを大切にしていただきたいと思う。

委員長　：選定委員の熱意ある質問に答える側の応募者は迷うこともあったと思うが、卒なく回答しており良かったと思う。放課後かまくらっ子が誕生した背景には、地域全体で子どもを育てていく鎌倉を作っていこうという想いがある。放課後かまくらっ子を軸として、地域の様々な人たちが子どもたちに関心を持ち、子どもたちを軸としてまちづくりをしていこうという機運が高まることに期待している。そういった点で、今回の候補者は放課後かまくらっ子の理念を十分に理解していると思った。一方で、困難を抱える子どもたちの家族をどう支えるかという点について深堀りをしたいと感じた。この対応方法が一番の課題だと思う。この点については、指定管理者に任せきりにするのではなく、地域として、また行政として、支えていくために何が必要なのかぜひ考えてほしい。今後の更なる発展を期待したい。